

西之表書史

下
卷

揮毫

西之表市長 八板 俊輔

種子島火縄銃保存会による火縄銃試射



太鼓山川渡り



サーフィンのメッカ種子島



西之表のまちなみ
(2016年11月4日撮影)



西之表市役所

◎市章



「西」の字の図案化であり、外側円形は海岸線を表し、鋭角にのびる△形は市の飛躍的發展を意味します。

◎シンボルマーク



市の花「テッポウユリ」と市の蝶「ツマベニチョウ」、種子島をイメージさせる「波」がモチーフとなっています。

◎市の花 テッポウユリ (ユリ科)



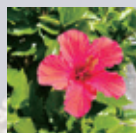
市内の原野に自生しているテッポウユリ。その形状から名付けられたともいうテッポウユリは、種子島銃を連想させ、親しみを感ぜさせます。

◎市の木 アコウ (クワ科)



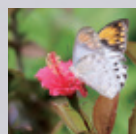
天に伸びる生命力は市の発展を、気根が地中に入り新しい樹幹となる活力は市民の強くたくましい姿を、幹と幹を練り合わせ大地に立つ姿は市民の協調と連帯を表しています。

◎市の花木 ブッソウゲ (アオイ科)



夏の種子島を代表する花木で、青い海・緑の島をバックに真紅に乱れ咲く姿は、南国情緒が豊かです。繁殖も容易で、開花期間も長く気候風土に適しています。

◎市の蝶 ツマベニチョウ (シロチョウ科)



古くから人間に親しまれている蝶の中でも最も美しいツマベニチョウが、市の花木であるブッソウゲの花から花へ飛び交う風情は、南国的です。





大隅國熊毛郡種子嶋沿海圖（京都大学附属図書館所蔵）



御坊墓地（菊池一文氏撮影）



御拝塔墓地（菊池一文氏撮影）



航海の安全を見守る岸岐と築島

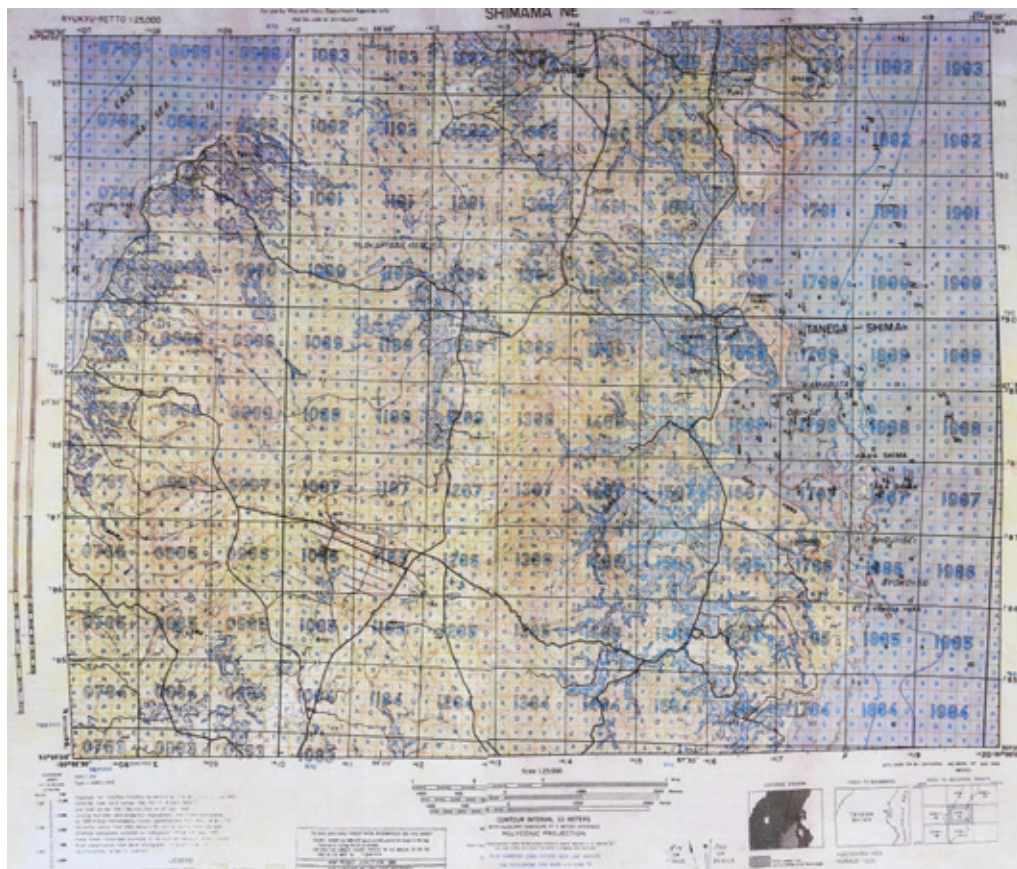


上石寺塩屋牧文書（上石寺財産管理組合所蔵）



馬毛島の岳之越

馬毛島の中央に小高く盛り上がった岳之越。丘の上には旧日本海軍が島民の協力で築いたトーチカがあった。



アメリカ軍が作成した種子島上陸作戦用地図「SHIMAMA NE」

(東京都北区立中央図書館寄託「稲葉朝成家文書」)

この地形図は、太平洋戦争末期の1945年4月14・15日撮影の航空写真を使用し、太平洋艦隊兼太平洋方面軍司令部の指令で、太平洋米陸軍第六四工兵技術大隊の第一六三写真測量小隊が同年七月に作成、八月に発行された。現在、北区飛鳥山博物館で保管されている。



能 野 焼 (菊池一文氏撮影)



種 子 鋏



麓地区のサンゴ石垣（榕城校区）



塩屋の歴史を伝える大崎塩屋神社と記念碑（上西校区）



日典寺の温座祈念（下西校区）



かつて笹の宮が祀られていた浦田小島（国上校区）



木折坂からの眺望（伊関校区）



日高（安納）隠岐守の墓（安納校区）



堂月の峯・院坊遺跡遠景と出土した蔵骨器（現和校区）



安城の新絶景スポット「汐見台」からの眺望（安城校区）



カシミア号船員が漂着した舞床海岸（立山校区）



鴻峰小のシンボルツリーだったヤクタネゴヨウ（中割校区）



満開の河津桜（古田校区）



浜之町のガジュマル（住吉校区）



住吉から馬毛島を臨む（2018年撮影）



馬毛島の岳之越に沈む夕日（2021年4月21日、川村貴志氏撮影）

2023年までの馬毛島のシルエット。一日の仕事が終わることを西之表市民に告げるように、赤く染まった夕方の西空に浮かび上がっていた。



種子島開発総合センター「鉄砲館」



赤尾木城文化伝承館 月窓亭（種子島家住宅）